

勝利の神と救い解放する神を切り分け、繋ぐ

今回のテキスト、つまり、ヘブライ語聖書における戦争神（ヤハウエ）の勝利と、エジプトからの解放神、救いの神をどのように切り分け、関係づけるか、そして、四旬節を生きるキリスト教信仰と関係づけるかが問われている。2010 年、半年チェコ、プラハ（1968 年プラハの春とソビエト連邦軍、ワルシャワ条約機構軍による軍事介入）の神学校で、ウクライナ、ベラルーシの若い男女の神学生と毎週、主の晩餐式でパンとぶどう酒を分かち合ったあの日々を思う。

1. 「全能 (šaday 参照 創世記 17:1 神の顕現定式「エル シャダイ」の神) がカナン或いは異教の王たちを散らされるとき (12 節～19 節)

万軍の主は (カナンの) 諸王との闘いで勝利をおさめ、彼等を散らされる。敵は統制力を失ってバラバラに逃げ去る。主なる神は凱旋される (歴史的には弱小国イスラエルは負け、バビロンに捕囚され、エジプトとメソポタミアの超大国の「緩衝国」として生き、その後ユダヤ戦争に負けて、全世界に「ディアスポラ」(離散の民) となったのだが…)。そのとき、神の勝利と神々しさを象徴してツァルモン山 (ヘルモン ペレスチナの最高峰 2814m) を中心としたバシヤンの峰々に雪が降る。雪は雪国の人たちにはさぞかし大変であろうが、雪を被った山の峰々は美しい。新生讚美歌 107 番参照。しかし、いかに美しい山々でも、シナイ山でモーセに顕現された神、また、(神殿の立つ山)「シオン」には敵わない。主なる神は、幾千、幾万の神の戦車を従えてその聖所に凱旋し、そこに住まわれる。礼拝共同体のただ中に!

2. 戦利品を分ける (12 節～)

戦争に勝ち負けはつきものである。勝利すれば分捕りものを分けあい、負ければ自らが戦利品として分捕りものとなる! イスラエルの大勢の女たちは良い知らせ (福音)、つまり、戦勝のニュースを巷で語り、聞く。また、家にいる女性たちは男性たちの闘いの勝利の知らせを待ち、いまや戦利品を分けている。当然戦利品の中には敵の女たちも含まれ、下手をするとイスラエルの女たちが敵の戦利品となる可能性もあったという過酷さである。(実に悲しい「デボラの歌」のシセラの母のくだりを参照せよ。士師記 5:28-30。敵の将軍シセラは女性ヤエルにこめかみを射し貫かれて殺されるのであるが、息子シセラの凱旋を待つ母はなぜ息子の凱旋が遅いのかと心配になる。賢い女官たちは、きっと戦利品が多く、兵士たち一人一人にイスラエルの女一人か二人を分けているので時間がかかり遅くなっていると囁く。松見が師キャロル・レイキー・ヘスはイスラエルの女性たちが敵によって戦利品として奪われる可能性もあるのであり、敵であれ味方であり、女性たち、子どもたちが犠牲になることの悲惨さを「デボラの歌」の背後に読み取らねばならないと言う。(Carol Lakey Hess, *Caretakers of Our Common House. Women's Communities of Faith*, Nashville/Abingdon Press, 1997.)

3. 羊のおり (舎) の間に眠る? 14 節

新共同訳の 14 節は「あなたたちは二つの鞍袋の間に横たわるのか」と翻訳しているが、口語訳を採用したい。「たとい彼らは羊のおりの中にとどまるとも」参照青木澄十郎は「汝ら羊舎の間に臥すとき

は」と翻訳し、戦争から帰還して元の仕事に戻り、羊の群れたちの間に、平和に、満ち足りて寝ているということか？

4. 主よ、神よ (yāh 'ēlohīm) ! 高きに上り、とりこから贈り物を受け取った方

19 節はエフェソ 4:8 に引用されている。地上に下り、十字架につけられたキリストは、復活し、天に昇って、再び聖霊を通して、私達の処にきてくださっている。「賜物を分け与える」という文脈で、「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、人々に賜物を分け与えられた」と少し強引に引用されている。詩編 68:19 では「主よ、神よ/あなたは高い天 (lammārōwm) に上り、人々をとりことし/人々を貢ぎ物として取り、背く者も取られる」という。勝利した主なる神は、背く者さえもとりこにして高い処に上り、(そこからその戦利品を分配してくださる)」というのであろうか？

5. 信じる者たちを担い、救われ、死から解き放つ神(20 節~22 節)

29 節は、祝福されるべきは (bārūk) 主 ('ādōnāy) であり、日々われわれを担う方 (ya'āmās-)、わたしたちの救いの神 (The God, hā'ēl)。神はわれわれの神、救いの神であると告白する。この神 主 ('ādōnāy) に死からの逃走 (解放) が (属している) と謳う。松見は教会において「担う」という言葉を教えられた。神はわれわれを担い、背負われる。神は救いの神であり、死からの解放者である。ここでは、「ヤハウエ」と「エル」という神名が並べられている。「エル」は、「ダニエル」とか「エゼキエル」とか人名にも多用される神名である。ここでは冠詞つきの the God である！ 詩が語る戦士としての神は救い主としての神であり、信仰者の共同体は悩める、貧しい民なのである！その弱く、貧しい人々の中で神は罪と死に打ち勝たれる！